

川津の郷かわつ

かわこのさと

まち歩き
ガイドマップ



1 推薦神社 推恵さんの龍 夜な夜な遊びに 出たそうな

楽山東の小さい高い地に、松江藩が創建したという端正なたずまの当社が建つ。社の後ろ側に回ると、破風から迫力ある木彫りの龍が見下ろしている。民話によると、昔この龍は毎晩ここを抜け出し池の水を飲んだり、里人にいたずらをしたりしたそう。



推薦神社の龍

2 熊野神社 昔から 熊野神社で 神楽舞う

紀州の熊野三所権現を勧請したという当社は、本造建築物として300年の歴史を誇る。毎年10月に入ると、あちこちで青地に白で熊野神社と染め抜いた祭の幟が並んではためき、祭り気分をそそる。10月9日の祭日には、古くから神楽が奉納される慣わしが今も続く。



かぐら(か)

3 楽山公園 楽山は 藩主が残した 名庭園

「楽山」は、松江藩がこの地を別荘地として茶室や、名庭園を造営したことから始まる。藩は楽山を厳しく管理したが、神社の祭日には一般の人々にも解放し、行楽客で大変な賑わいだったという。楽山公園として整えられた今では、テニスコートや野球場等が設けられ、木々の生い茂る森と池の辺りに昔日の面影を潤わしている。



弁天池(す)

4 靈感寺 楽山北に建つこの寺は、観音寺と称していたが、松江藩主が楽山に寺を建て靈感寺と改号し、今日に至る。本堂の島根8番、円通堂の9番、松楽堂の10番の3つの島根札所を持つ。松江藩ゆかりの古い寺と境内の銀杏が調和し、落ち着いた空間を作り上げている。



靈感寺本堂

楽山焼 名工の 権兵衛が始めた 楽山焼

年2〜3回、楽山の方向に煙が立ち上ると、住民は登り窯に火が入れられたことを知る。楽山焼は松江藩が陶工倉崎権兵衛重由を招き始めたもの。その情緒豊かな伝統は抹茶茶碗を中心に現在の11代目長岡住右衛門空権に受け継がれる。事前に申し込みは見学できる。



登り窯(す)

川津地区は、松江市の東部に位置し、県立自然公園嵩山の麓にあり、まちのほぼ中央には、水草川(朝酌川)が流れている。

川の流域には、西川津遺跡等の遺跡群、丘陵地には古墳が点在している。
昭和30年代まで純農村地帯で、昭和40年代から急速に宅地の造成・開発が進み、新しい団地や学園通り商店街の誕生、国・公・私立の幼稚園、小・中・高校から大学、養護学校等が設置され、市内随一の文教地区となるなど大きく変貌してきた。

平成25年には、道路網も山陰道、国道9号線から縁結び大橋を経て、川津地区の国道431号線につながる川津IC(インターチェンジ)が完成し、一段と交通の利便が良くなり、更なる川津地区の発展が期待される。

●水草川(朝酌川)の名称について

朝酌川は、昭和の年代まで蛇行して流れ、流域の西川津地区はたびたび洪水に見舞われていた。平成14年に河川の大改修工事が完了し、往時の面影を一新している。
この川の名称は、近代まで「水草川」とされていたが、その後、「川津川」、そして、現在は河口周辺の地域名から「朝酌川」とされている。
川津地域の住民には、歴史のある名称「水草川」になじみが深く愛着も強いことから、ふるさと川津を代表する川としてこのマップにも往時の名称で載せている。



●駐車場 ●トイレ ●バス停留所
●スタート地点

◎文中イラスト出展
(か)…かわつ故郷かるたから (す)…かわつ故郷すごろくから

●故郷かるたについて

川津公民館は、平成20年に川津地区の自然、歴史、文化、伝統行事等地域住民が郷土を愛し、誇れる内容の「かわつ故郷かるた」(読み札・一般住民、絵札・川津小4年生)を作成しており、このマップ作成の礎としている。表紙のかるたをはじめ、随所にかかるたを引用している。

●愛称「川虎の郷」について

朝酌川は、出雲国風土記に「水草川」と記され、江戸時代に発刊された「雲陽誌」に、古老の話として、この川に棲むいたずらもの「川虎」(かっぱ)の話があり、証文も残されているという。この地区に伝わる民話の中で最も多くの町民に親しまれている。
このまちあるきマップの愛称は、その民話にちなんでつけたものである。

緑豊かな自然と悠久の時の流れを刻むまち

(川津地区へのアクセス)



編集・発行

川津地区わがまち自慢発掘プロジェクト実行委員会

お問い合わせ先

松江市川津公民館

〒690-0823 松江市西川津町3405番地5 TEL.0852-21-2349 FAX.0852-31-8510

【平成25年3月発行】

12 嵩山・布自伎美神社 寝仏さん 川津見守る 嵩・和久羅

嵩山は、右隣に並ぶ和久羅山と合わせて「寝仏さん」の愛称で親しまれている。出雲国風土記の頃には布自伎美嵩山と呼ばれた。また、のろしの施設を持つ山であったと記される。山頂に祀られた布自伎美神社は、地元の氏子の篤い信仰に守られ、今も人々は元旦のお参りをかかさない。331mの頂に立つと、「日本一の大庭園」と称された大山、中海、大根島、弓ヶ浜も一望の大パノラマを心ゆくまで堪能できる。
昭和58年、登山道や駐車場等が整備された。休日には、登山を楽しむハイカーや家族連れで賑わっている。リピーターが多いのも当山の特徴。皆さんもぜひトライしてみたいかが。



寝仏さん



布自伎美神社本殿

本覚寺

嵩山の麓、標高50mの地にある寺。本堂の側には島根札18番の観音堂がある。振り仰げば、山が意外な近さで大きく迫る。豊かな自然環境の中で、初夏の紫陽花をはじめ、四季折々の丹精された花が美しく、訪れる人の心を和ませる。



本覚寺参道

西宗寺

この寺の創建は、16世紀と記録される。境内にある「よしだ観音堂」は島根札19番の札所。本堂裏にある石積式石室の「西宗寺古墳」(7世紀のもの)と推定は世に知られる。覆われていた土は失われ石室は露出している。寺に頼めば、見学することができる。



西宗寺本堂

西宗寺の石室(す)

熊井の滝

嵩山の頂から湧き出た泉が、滝となり熊井の地に流れ落ちる。真夏でも潤れることがない。流れに手をひたすと、じんじんする程の冷たさ心地よい。その水を使つてのそうめん流し(7月から9月)は、夏の暑さを忘れさせてくれる。



熊井の滝(か)

9 ソフトビジネスパーク島根 平成の 産業めどす ビジネスパーク

平成12年、島根大学北側の丘陵地(北樓町)に研究開発型の企業団地、ソフトビジネスパーク島根が新設された。現在、入団企業は18を数える。また、働く人のための保育所もできた。
ゆるやかな坂道をしばらく登ると、丘の頂上にある「テクノアークしまね」に辿り着く。隣接の「風の公園」でぱっと一息。高みから眺める山々の連なりに癒される。公園を囲むユニークな7基の風の風車が、風の向きと強さを知らせるのも面白い。



ソフトビジネスパーク(か)

菅田庵

江戸時代に、菅田町の松江藩家老の有沢山荘に、不昧公の指図で茅草入母屋造りの茶室、菅田庵が建てられた。破風には不昧公直筆の丸い陶板が掲げられている。昭和に入って、国の重要文化財の指定を受ける。なお現在は、一般公開されていない。



菅田庵(す)

7 貴船神社

菅田町にある貴船神社は、京都鞍馬の貴船神社を勧請したもの。当祭神は古くから水を司る神として、祈雨、止雨の信仰を集めてきた。昭和に入って、2度にわたる雨乞い行事の記録が残っている。



貴船神社本殿

8 極楽寺

当寺の本堂には高さ60cm余の薬師如来を安置する。本堂が3番、境内の観音堂が4番の島根札所。平成24年には、宗派、檀信徒を問わない永代供養塔が建立された。墓地入口の六地藏菩薩のよだれかけの赤が鮮やかだ。



極楽寺本堂

5 山崎庵

橋本地区にある当庵は観音堂を持ち、祀られている金比羅大権現は、讃岐の金比羅宮から分祀されたという。弁財天も合祀されている。古墳の主の音が聞こえてきそう。石室から発掘された子持勾玉と須恵器は、学会の注目を集めた。



山崎庵本堂

6 金崎古墳

夢が丘の坂道を登りると、こんもりとした森の入り口に、国の史跡、金崎古墳の案内板が見えてくる。ここに現在、5基の四角い古墳が横たわる。耳をすませば静けさの中から、古墳の主の声が聞こえてきそう。石室から発掘された子持勾玉と須恵器は、学会の注目を集めた。



前方後方墳(す)

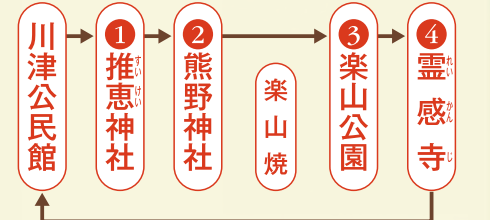
川津ふるさとマップ



川津地区まち歩き
おすすめコース

A 楽山コース

●1周 約2.6km ●所要時間／約60分



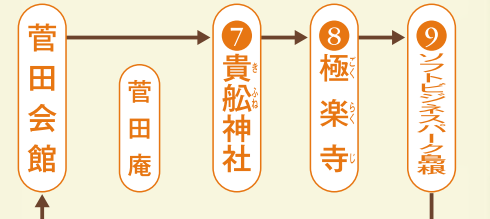
B 金崎古墳コース

●片道 約1.5km ●所要時間／約30分



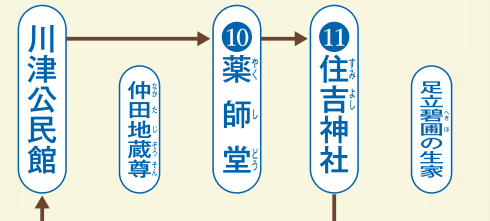
C ソフトビジネスパークコース

●片道 約2.1km ●所要時間／約40分



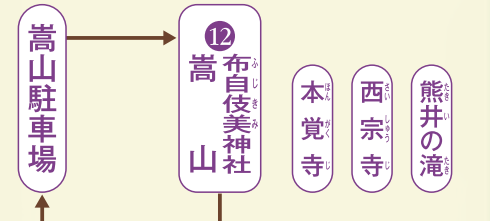
D 大内谷コース

●片道 約1.6km ●所要時間／約30分



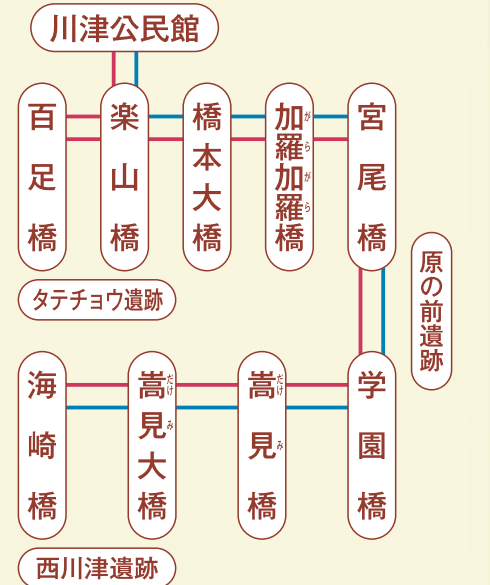
E だけ さん 嵩山コース

●片道 約1.1km ●所要時間／約40分



F 水草川(朝酌川)コース

●1周 約6.3km ●所要時間／約90分



土笛の数 日本一だよ 川津の遺跡

水草川(朝酌川)

縄文時代以降、川津の歴史は水草川（朝酌川）流域を舞台に繰り広げられてきた。「川津」の名もこの川が船着場だったことによるらしい。川虎伝説もここから生まれた。

川風に誘われるように川沿い土手の小道を歩けば、刻一刻と移り変わるこの川の変容に気づかされる。まずは、川下の百足橋から海崎橋までの9つの橋を眺めたり、渡ったりしながら川辺の散策を楽しみたい。途中、悠久の歴史を物語る3つの遺跡（タテチョウ遺跡、原の前道跡、西川津道跡）に出会えるかも。自分の体力とペースに合わせて歩けるのも、このコースの魅力だ。